

福島視察に関する講演会が開催される

2017年8月8日(火)16時から東北プロジェクトの事前学習会の一環で、福島民友社の小野広司氏にお越し頂きご講演を頂いた。被害直後の状況、大津波が来たときの状況、原発事故に伴う避難の状況、風評被害の状況、それを乗り越えていこうとしている現状、について新聞記者の視点からお話を頂いた。

震災直後の状況については、その時に記者の方が撮影した写真を数々ご紹介していただき、リアリティ溢れる現場の状況を把握することができた。また、原発事故に関連する数々のお話を頂いたが、その中でも、強制避難で病院から寝たきりのお年寄りを自衛隊のバスに乗せて非難した際に亡くなられた方が多くおられ、それは誰の責任かということは、非常に難しい問題であると思われた。

講演では数々のお話を頂いたが、風評被害がなかなか解決に向かわない要因として、これまで日本で行われてこなかった放射線教育を指摘された。確かに現在でも十分な放射線への理解がないままであるので、様々な誤解が生じていると思われる。現在、福島県では取り組んでいるとのことであるが、福島県のみならず全国的な取り組みにしていかなければならないと改めて認識できた。

最後に次のようなメッセージを頂いた。「原発からの汚染水の問題、廃炉の問題等、課題は山積している。今後の復興にも巨額な予算が必要となる。これは政治の問題と関係することになる。そうなれば福島県外の人々がどのような意思表示をするかにかかってくる。そのためにも、福島の状況に関心を持って欲しい」。

今回のアクティブ・ラーニングがその一助になるものと思われ、非常に意義のある取り組みを行っていると思えて認識できた講演であった。



ご講演の様子



学生との質疑応答